

女性チャレンジ応援拠点だより 2021 6月

〇●〇●〇 コラム【はや6月、いざ実動!】〇●〇●〇

大阪は、「緊急事態宣言」が再び延長されました。予定が中止や休止になった方も多いと思いますが、先月おすすめた「見直し」の時間はできたのではないのでしょうか。未来の成長への時間投資です。

ちなみに、フランスの著名な数学者が次のように言っています。『経済では、一番わるいのは、全員が日和見主義になって、殻に閉じこもり、事態が好転するのをじっと待っている状態である』。そして、『きわめて重要なのは、他人の考えを察知すること、彼らの出方を、本人たちが意識する前に予想すること』と強調しています。

その予想に長けた企業や人々が動き、新しいサービスがどんどん出てきています。社会全体の大きな流れに目配せしつつ、みなさんはそれぞれの活動フィールドに応じて観察し、予想して、今後の動きを再設計または新設計していきましょう。

そこで6月の『チャレンジする人のニューノーマル』は、まず「チャレンジの成果のとらえ方」について考えてみます。

当「拠点」は平成28年1月26日にオープンしました。その記念イベントのタイトルは『地域が私たちのインキュベーション』。インキュベーションとは、起業や新しい活動を育成する〈保育器〉という意味です。

モノやサービスの多くがネットを通じてグローバルに手に入り、パソコンさえあればどこでも仕事ができ、家が仕事場という人も多くなっていました。グローバルでありつつ、「ローカル」に可能性が拓く芽がある、そういう意味あいで「地域がインキュベーション」でした。

「コロナ後」はこの意味あいが増すのではないのでしょうか。「社会的距離」は当面続き、その必要がなくなっても、仕事でも暮らしでも、一般的にはオンラインでやりとりが定着する。そして対面はよりパーソナルに、密に、深い関わりに、人々の価値がむく、もう向いています。

“パーソナルに”というのは、ネットが社会に定着した2000年頃から言われていましたが、「コロナ」によって、その次元が高くなったと言えます。サービスを提供する相手は少ないけれど、対価は適切に得る、それに値する価値を提供する。同業他者とは一味違う価値を、です。

ここで一つ、成果を測るモノサシに『充実した人間関係を維持できる個体数』を充ててみます。その数、平均150人。一人の人間が、他人の顔と名前が一致する人の数、例えば、年賀状のあて名書きをするとき顔が浮かぶ人数が150人前後といえます。

この人数に20-80の法則をあてます。売上げ80%は上位20%の顧客が担っているという例の『パレートの法則』です。150人のうち、あなたのチャレンジを高い共感を示すのは20%の30人。その30人の内、実際に顧客や協力者になるのは、さらにその20%、6人。

もし一人でチャレンジを続けていくなら、相手先は6者・社。時々入れ替わっても、長くよい関係を築いていくのは、相手先6つでよし! ととらえる。いかがでしょう。

では、「女性チャレンジ応援拠点」の対面での来室相談は未だしばらく〈おあずけ〉ですが、今月下旬には再開の予定です。また実際にお話がうかがえるようになります。みなさまのご利用をお待ちしております。

〇●〇●〇 休室のお知らせ 〇●〇●〇

緊急事態宣言の発出にともない、令和3年4月27日より6月20日までは、来館による相談を休止しています。期間中は休室日以外の通常の開室時間帯にて電話で相談をお受けします。メールでのご相談もお受けしますが、返信に時間を頂く場合があります。みなさまにはたいへんご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。



女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4階
電話&ファックス：06-7659-9640
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp
日、月、祝日、祝日の翌日は休室

【緊急事態宣言中の電話対応時間帯】

火・金曜日 10:30~12:30
木・土曜日 13:00~15:00
水曜日は電話・メールとも休止

